

「前立腺癌の話」



泌尿器科部長

中野 大作

山香病院だより vol.86

があります。

治療法は、早期の転移せず
に局所にとどまった状態の癌
(局所限局癌) の場合は根治
手術か放射線治療が主体とな
ります。最近では放射線治療
のひとつである重粒子線治療
のトライアルも開始されまし
た。一方で進行癌には内分泌
治療(ホルモン治療)が約60
年前に開始され、現在でも中
心的な治療です。

近年、日本における前立腺
癌の増加は著しく、近い将来
その増加率は全ての癌の中で
1位になることが予想されて
います。

これには人口の高齢化以外
に、食事の欧米化が関係して
いるようです。アメリカでは
男性のかかる全ての癌の中で
前立腺癌の頻度が最も高く、
死因の第2位となっています。
10〜20年後には日本もア
メリカと同様の状況になるこ
とが予想されています。

一方で採血によるPSAの
測定やエコー検査・集団検診
の普及により、早期に癌が発
見され、根治(完治)するケー
スも増えてきました。

特にPSAの測定は優れた

検査です。PSAは前立腺か
らだけ作られる特殊なタンパ
クで、血液中に排出されます。
癌からは排出される量が多
く、血液中のPSAの値が高
くなる傾向があります。4未
満が正常ですが、4〜10程度
の方では約30%の確率で癌が
発見され、10を超えると半数
以上の方に癌がみつかりま
す。ご家族が前立腺癌になっ
たことがある方は50歳以上に
なったら年1回、それ以外の
方は60歳以上になったら年1
回はPSAを測定することを
お勧めします。

検査によって癌が怪しまれ
る場合、正確な診断をするに
は前立腺から針で組織を取る
前立腺針生検をおこなう必要

があります。

前立腺癌の発生・進展に関
する研究はいまだに全貌の解
明には遠いものの、少しずつ
解明されてきています。癌を
引き起こす要因として遺伝要
因と環境要因がありますが、
環境要因のうち食事に関して
はアメリカではガイドライン
も作成されています。緑黄色
野菜が良いことは多くの癌で
言われていますし、大豆製品
が前立腺癌を抑制すること、
脂肪摂取が悪影響を及ぼすこ
とも知られています。

この度、小野院長と大分大
学腎泌尿器外科の三股教授の
ご尽力で泌尿器科を再開する
ことができました。皆様が泌
尿器疾患で困らないよう努力
いたします。